鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第71号　H24．4．26

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

5月の行事予定

5			
1	火	PTA評議員会	教員相互授業参観期間
2	水	**金曜の授業**	
3	㊍	憲法記念日	
4	㊎	みどりの日	
5	㊏	こどもの日　3年学研模試	
6	㊐	3年学研模試	
7	月	全校朝会 実力考査時間割発表	
8	火		
9	水	立会演説会・生徒総会	
10	木	耳鼻科検診(1年)　尿検査(2次) 学校安全の日	
11	金	避難訓練 尿検査(2次)	
12	㊏		
13	㊐		
14	月	**実力考査（1日目）　PTA総会**	教育実習
15	火	**実力考査（2日目）**	
16	水		
17	木		
18	金	同窓会幹事会総会	
19	㊏		
20	㊐		
21	月	学年朝会 集団読書(3年)	
22	火		
23	水	PTA総会欠席者会	
24	木		
25	金	交通安全教室	
26	㊏	2・3年駿台模試	
27	㊐		
28	月	全校朝会 集団読書(2年)	
29	火		
30	水		
31	木		

追い越してゆくんだ

校長　大平　和男

四月九日。本校は新一年生三百二十名を迎えた。入学式では、人生の新しい一ページを開くに当たって、希いを込めて心に一本の苗を植えること、その苗をどこまでも伸ばしていくこと。相対的な見かけの位置に惑わされて自分の価値を見誤ってはいけないことを話した。話すそばから消えていく言葉であったから、大切なことを文字に記しておきたい。

人は誰しも新しい生活が始まるとき何らかの決意をする。心の中に一本の苗を植えるわけであるが、その苗を育てていく前提として、そもそもその苗が育てるに値するものであることが必要である。高い理想と志とによってその苗は植えられなければならない。次に必要なのは素直さである。素直とはあらゆる事をまっさらな心で受けとめること。これを持てば、暑さも寒さも、飢えや渇きでさえもすべて自分を育てるための養分とすることができる。三つ目は自発性。自分から伸びようとしない苗を育てることは出来ない。無理に引っ張ってもちぎれてしまうだけである。鶴丸生にとって最も大切なことは、自発的であるということである。

二、三年生の諸君。かつて鶴丸の校門をくぐった日、心の中に確かに植えたあの一本の苗は順調に育っているか。藪に覆われて、どこに何を植えたか分からなくなっていはしないか。単調に思える、単調にしてしまっている日常の中で、苗を植えたことすら忘れかけてはいないか。万物が新しい命を始める今、しばし立ち止まって初心に帰ってみよう。

高原をゆく子馬たちよ、まどやかにそして強く駆けてゆくんだ。
目隠しされた馬車馬の親たちをあわれみながら。
追い越してゆくんだ。
雨が降り、時が流れて忘れ物をせぬうちに。

（小椋　佳）

目隠しされた馬車馬とは詩的強調に過ぎないであろうが、しかし、自分たちを追い越してゆけと次の世代に願うのは、親として、大人として誰しもが持っている思いである。誰よりも鶴丸の先生たちが、追い越してゆくことを君たちに求めている。「教師を超えろ。」これが鶴丸生の合い言葉だ。

君たちは、例えばモンゴルの草原を鬣をなびかせてどこまでも駆けていく駿馬だ。君たちに願うことはただ一つ。自ら駆けてゆけ、自らを駆り立てよ、ただ自発的であれ。

そこに歩みを止めて静かに佇んでいる馬は大人たちだ、かつて君たちのように遙かに駆けてきた。ためらいなく追い越して彼方に至れ。そうやって命のバトンを繋げ。君たちもいつか休らう時が来る。

新入生諸君も二、三年生も覚悟はいいか。ただ自発的であれ。そのために心の声を聴け。風の音に惑わされるな。静かに目を閉じて、君の深いところから聞こえてくる、心の声を聴け。教師を超えよ。

入学式を終えて

一学年主任　酒匂　恵子

例年よりも少し遅い入学式となったため、桜が散ってしまわないだろうかと心配していたが、強風に見舞われながらも鶴丸の桜は、66期生たちをしっかりと待ってくれていた。穏やかな天気の中、平成24年度入学式が挙行され、晴れて66期生の高校生活がスタートした。66期生は男子生徒が少し多く、心なしか華やかというよりもどっしりとした入学式であったと感じている。

月曜日スタートのため、一週間みっちりとオリエンテーションというスケジュールで、たいへんな一週間だったと思う。しかし、慣れない中走り回りながら元気にスケジュールをこなしている新入生たちをみると、日に日に中学生から高校生へと変化してきている様子が見て取れる。一方では中学生の幼さを残し、一方では何とか一段階乗り越えようとする様子が絶妙な感じではあるが、校歌の練習や集団訓練・挨拶と要求に応えられるよう必死に努力している。二週目からはまだまだ行事が多いとはいえ、平常授業の中で部活動の仮入部も始まり、いよいよ鶴丸高校一年生としての平常のリズム作りが始まった。面談を通して不安や疲れも見えてくるが、「まず始めること」「失敗してもよいからチャレンジしてみること」「友人や先生、家族と話をすること」で自分をうまくコントロールしながら鶴丸のリズムに慣れていってほしい。

さて、鶴丸には様々な「言葉」がある。校訓はもとより校是、鶴言など新入生もすでにあらゆる所で見たり聞いたりしているはずだ。66期生にこれから3年間かけてぜひしてもらいたいことがある。それらの言葉のどれでもよい、いくつでもよい、自分の体の中に心の中に深く落とし込んで自分のものにしてほしい。自分のものにするためには、自分を成長させようとする気持ちがなければならない。鶴丸は成長しようとする者の集まりであり、皆がそれを尊重する仲間である。思う存分自分を高めてほしい。4月19日創立記念式典では、「はろばろと」誕生60周年ということで、記念DVDから作詞された中馬幸子先生と作曲された郡山正先生のインタビュー映像が流れた。「はろばろと」の歌詞がどのようにして生まれたのか、中馬先生の言葉を聞きながら涙が流れてきた。終戦直後のその時代を経験しているわけではない私にも、先生がそのときに見た光景が見えた気がしたからだ。「はろばろと」という言葉の力、そこに込められた中馬先生の思いが、そうさせたのかもしれない。中馬先生の言葉から何かを感じとってくれたのか、その後の校歌斉唱で、覚えたての校歌を大きな声で一生懸命に歌う一年生がまた少し嬉しくもあった。校歌をみんなで歌う機会は3年間でそう多くはない。「還らざる三年」の中で、これから校歌を歌うたびに言葉を噛みしめながら少しずつ鶴丸生の顔になっていくことを心から願い、楽しみにしている。

英姿颯爽

～美しく煌めく二つの焔～

生徒会長　山口　舞

4月20日。天気予報は「くもり、時々雨。」今年の甲鶴戦は前日まで天候が心配されたが、皆の願いが通じたのだろう、当日は晴れ間さえもうかがえるようなすばらしい一日となった。

昨年11月に発足した甲鶴戦実行委員会。発足して間もなく、私たちはある問題にぶつかった。今年は、野球場の関係で野球の全校応援ができないということになった。全校応援の競技が変更になるということは初めての経験で、私たちはこれからどうしていけばよいかわからなかった。しかし、私たちが本当にやるべきことは、限られた条件の中でも、いかに最高のものを作り上げるかということだと気付いた。それから、部長や先生方との話し合いを何度も行ってきた結果、少しずつではあるが、甲鶴戦当日のイメージがわいてきた。

そして迎えた第42回甲南・鶴丸スポーツ交歓会。17の競技で熱戦が繰り広げられ、私たちもインフォメーションコーナーに届けられる試合結果の情報に一喜一憂しながら、運営に臨んだ。残念ながら今年はこの大会を鶴丸の勝利で飾ることは出来なかった。しかし、初めての試みであるサッカーの全校応援で生徒全員が機敏に行動でき、思いっきり盛り上がれたことで、私たちは大きな達成感を味わうことができた。

声を嗄らしながらも最後まで力を振り絞った応援団、風や灰に見舞われながらもその演奏で皆を盛り上げた吹奏楽部、開会式や競技中のアナウンスを行った放送部、迫力のある横断幕を作成した美術部、そして、この日の主役である、運動系の部活動の選手たち。皆がそれぞれの立場で様々な思いを抱いて、この大会に臨んだ結果、皆の心に残り続ける本当にすばらしい大会になったと思う。甲鶴戦を終えて、皆がさらに鶴丸生としての自覚をもち、これからも互いに高め合いながら、充実した毎日を送っていけたら、と思う。

甲鶴戦副実行委員長としてこの大会の運営に携われたことに深く感謝している。勝ち負けにこだわるわけではないが、来年はもう一度優勝旗を鶴丸に持ち帰ってほしいと思う。がんばれ、後輩たち！

新任の先生方着任！

本年度も定期人事異動により8名の先生方が着任されました。

着任者は、次の通りです。（下段は旧任校等）

事務長	齊藤　守重	県教育庁教職員課参事
数学	中野　浩一	川内高校
理科	大山　毅	屋久島高校
芸術	新福　一孝	北指宿中学校
英語	福留　直美	川内高校
英語	除川　創	新規採用
養護	今里　英子	出水高校
事務	石堂　千穂	沖永良部高校

先生方よろしくお願いします。

平成24年度大学入試結果

大学名	合格者数	大学名	合格者数
東京大学	12	京都大学	7
一橋大学	3	大阪大学	4
東京工業大学	7	広島大学	10
東北大学	1	九州大学	37
筑波大学	3	熊本大学	13
鹿児島大学	68		

※国公立大医学部医学科１６名合格

〔国公立大学合計　218名〕

慶應義塾大学	12	中央大学	15
早稲田大学	31	立命館大学	44

〔私立大学合計　317名〕